僕は友達が少ない。…ごめん。友達なんていない

和風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕は友達が少ない。…ごめん。友達なんていない

【Ｎコード】
Ｎ６０６６Ｓ

【作者名】
和風

【あらすじ】
聖クロニカ学園には残念な部活がある。
その名も『隣人部』この部活には、目つきが悪い部長と不良と男子の憧れの的、柏崎星奈とかが所属しているらしい。
他にもメイドや幼女シスターと邪気眼臭い子…博士みたいのもいる…
何故こんな部活を紹介してのかと言われると僕がこの部活に入ってしまったからだ。
…理由？本文みればわかるだろ？さー、ゴー！だ
※文才がない。誤字・脱字がある。変態。以下の条件が飲める方の

み見るがいい…っくっくっく……はーっはっはっは！

プロローグって要るの？（前書き）

処女作です。…処女ってなんかどきっとしますよね。
僕はします。
皆さんしませんか？…そうですか（，・ω・、）

後、感想待ってるから…つまらんの一言でもいいからー！！

プロローグって要るの？

僕には友達がいない。

…勘違いするなよ？友達がいないのは僕が悪い訳では無く、周りが駄目なんだ。僕と趣味を共感できる奴がまったくいない。普通一人ぐらいいるもんだろ？アニメのパンチラだけを編集したＤＶＤを作るとか、新しいエロ単語を考えるとか、幼女を見てハァハァするとか！……何故皆はしないんだ……。

これじゃ僕が異常みたいじゃないかっ！……そんな訳がない。

……僕と趣味を共感できる友達が欲しいな……。

授業が終わり教室を見渡すが、いつもの風景だ。周りには僕に集るハエ共。

それを恨めしいように見る男子達の目。

……ハエ？ああ、このクラスの女子だ。全く……邪魔だと言っても体をクネクネさせるだけだし全く持って気持ち悪い。

僕は三次元なら幼女にしか興味がないのに……中学生からはババァだ！てめぇら退きやがれ！

……そんなこと草食系の僕が言える訳ないじゃないか。

「邪……ちょっと用事があるから退いてくれるかな……？」

僕は紳士的態度を崩さぬまま、ハエ……女子達を退かせる。ハエと言う名のババァが話しかけてくる。

「え？何処行くのっ！？私も着いて言っていい！？」

周りの女子達もずるーいとか抜け駆け禁止ーとか言ってる。…憑くだとっ！？お前らは妖怪なのか！？僕は勘違いしつつも、紳士的態度を崩さぬままイケメン風（笑）で言う。

「怖っ……困るよ。僕が行くのはトイレだよ？それに放課後は別の用事もあるから先に帰ってて欲しいかな？」

そう僕が行くのは男子トイレ。別にどっちも出ないが、息が詰まるこの教室から早く出たいだけなのだ。周りの女子達はそ、そっかー…など言って引き下がる。

僕は教室を出ると早足で男子トイレに入る。そう、ここでいつも１０分から２０分潰す。５分ぐらいだとまだ残ってたりするからだ。……本当に何回捕まったことか……二桁は超える。

２０分後、僕は廊下に出る。本当は今日の予定なんて何もない、なんとなくだが、適当にウロウロするすることにした。

特に考えも無く、学校中を歩き回る。この学校『聖クロニカ学園』はとても広い。中・高とあるが、かなり離れている。僕は2年間もこの学校にいるが、まだ迷うことがある。そのせいで遅刻……なんてことは嫌だから暇なときはこうして道を覚えようとしている。そして今日で高校内の道を殆ど回り切り、高校内の道を完全に暗記した。

……うん、家に帰っても仕方ないし、今日は外の道も少し覚えて帰るかな。

そう、クロニカ学園はとても広く、敷地内には礼拝堂があるらしく、まだ一度も行った事が無かったので、なんとなく行ってみた。

礼拝堂の中は三角屋根で十字架が飾られているかなり大きい建物で、内装はミサや結婚式などでも使用されるホールや懺悔室といったいかにも協会というイメージの施設の他に、談話室や自習室などが存在してるらしい。

僕は今日は宿題が出ていることを思い出し、自習室を借りようと思い立った。時は金なり。僕は自習室が在ろう道を行く。

「!?っう……鼻が……」

その時、僕の鼻に激臭が匂う。僕は急な激臭に顔を歪めた。僕は匂いの原因を興味本意で見にいってしまった。

御都合主義かどうかは解らないがすぐ見つかった。僕はその談話

室を覗き込む。

……そこには地獄が広がっていた。折り重なるように倒れる幼女×2。意識がないのか何も掴まなく、箸を鍋と口に往復させる美少女メイド。スタンガンで倒れてる男を目覚めさせようとしているマッドな博士っぽい人。何故か喧嘩しながら鍋を突いてる美少女が二人、長い黒髪美少女と金髪巨乳美少女だ。でも、そんなことはどうでもいい。僕は急いでその教室にいる幼女達のとこへ向う。

「大丈夫!?息は!?息はしてるか!?」

「……お兄ちゃん……お兄ちゃん……悪魔が、悪魔がくるのだ……」

「あんちゃんどいて、そいつを殺せない……」

「ふぅ……良かった……息はしてるようだ……」

僕は安堵の息を吐く、が突然来た僕にビックリしていた。黒髪の美少女が不機嫌そうな表情で僕に言う。

「…オイ……今は部活中なんだが?部外者は出って行ってくれないか?」

無視してみた。

「衛生兵ー！衛生兵ー！」

僕がその黒髪の人を無視して、救急車を呼ぼうとした時、頭にハエ叩きが飛んできた。

ぺちっ

「あいたっ」

「無視をするな、無視を。たっく、肉並に話を聞かない奴だな」

「どういう意味よ！？」

「そのままの意味だが？」

「うがッーーーー！！！！！」

……あれ？もしかして僕。なんか無視されてる？……そんな時、後ろから僕に話しかけてくるおと…

「ん？誰だお前」

「はっ？っ！？！？　こっ」

「こ？…？？」

「殺されるーー！！！！」

「えええええ！？」

僕は一目散にその部屋からでて逃げ出す。……なんなんだあの不良！？すごい怖い顔で僕を見てたぞ！？もしかしてあの人のテリトリーだったのか！？

それからのことはあの人から逃げる一心だったからよく覚えていない。落ち着いたのは家で布団を被っていた……。

…明日にでも謝りにいかなきゃ……貴方様のテリトリーに入ってすみません。二度と近づきませんから許してください……と土下座で……などと僕は考えつつも布団で恐怖に怯えつつ眠った。

『隣人部』

「……何だったのだ？あいつ……急に逃げていったが」

「多分小鷹の顔を見て逃げていったのよ」

「……やっぱりか……」

漂う異臭の中で、三人は先の奴を思い出していた。身長１６０ｃｍ程度の少年のことを。

「あにきあにき」

「…お？もう平気なのか幸村」

美少女メイドが小鷹に話しかける。

「先程のひとはわたくしめとおなじ教室のものです。たしかなまえは結城　刹那だったとおもいます」

「そうか……明日謝りに行かなくちゃな」

「おれいまいりですか？わたくしめも共に」

「違う！……結城さんか……わかった幸村の教室だな？…明日謝りに行かなきゃな……」

小鷹は先ほどまで小鳩とマリアを介抱してくれた男子に会いに行くこと決めたのだった…。

つづくかな？

プロローグって要るの？（後書き）

長いよーつらいよーねむいよー
誤字が絶対あるよー…
読者の皆さん！ここをこうしたほうがいいなどお待ちしております！
追記
編集しました。誤字が減りました。要らない設定けしました。てれってててれー♪。5月6日。消しきるのに失敗したいらない設定を消しました♪
さらに修正。

結城刹那（前書き）

どうも編集大好きな和風です。
最初の頃とはまったく設定がことなりつつあるこの小説。主人公キャラのブレが酷いや。
※誤字脱字や感想。こうした方がいいなどお待ちしております。

結城刹那

「本当にすみませんでしたッーー！！二度と……二度と近づきませんから許してッー！！」

「え？ええ！？」

「……？」

僕は泣きながら土下座をする。……ええ。教室の中で膝を痛めつつ、ジャンピング土下座をしてやりましたよ↑得意気。

……どうしてこうなったかは少し時間を戻して説明する。

深夜４時、僕はあの人に謝るために完璧な土下座をマスターしようとしていた……それはもう完璧マッス〇・ス〇ーク並みの大技を見せないとあの人は許してくれないと見たからだ。だから僕は２時

くらいからずーっと家で完璧ジャンピング・土下座の取得を目指していた。……っく！やはり完璧なマ〇スル・〇パークを編み出したみたいに仲間や友達に手伝ってもらう他ないのか……僕は携帯を取り、電話しようと模索する……。

ん？……

「……そうだ……僕には友達がいないんだ……」

絶望した。

気がつくと朝日が出ている……膝が笑ってるぜ……へへ……。

朝ご飯を適当に摘み、家を出る……特に説明することがないから省くか。

学校に着くとまず時計で時間を確認した。時刻は６時５０分！よしっ！後１時間で完成させるぞー！膝を擦りつつ再度練習が再開された……。助走を付け、着地予測地点へジャンプ。空中で土下座の体勢に。……土下座って奥が深いんだね。サラリーマンの皆さんお疲れ様です。

「……」

「せいやっ！とりゃーっ！おんどりゃーっ！……ふぅ５０％完成だ

な」

「な、なぁ何……やってるんだ……？新種のラジオ体操か……？」

「な！？失敬な！これは正真正銘なジャンピング・土下……あぶろろｒ○×△■！？」

目の前には昨日の不良さんとメイドさん。時刻は７時半。は、早い。早すぎる。まだ半分も完成してないのにあれを見せるのか！？いやしかし、この本番に強いねーと先生に誉められたことがある僕なら！きっと……きっとできる筈だァァァ！！！！その場でジャンプ空中で体勢を変え……。

「本当にすいませんでしたッーー！！二度と……二度と近づきませんから許してッー！！」

「え？ええ！？」

「……？」

僕は泣きながら頭を地面に擦り付ける。完成度６０％だ！これならいける筈だ！！

「オ、オイなんでそんなこと……？」

「ななっな！？」

なん……だと？馬鹿な……効いてない……だと？この誰もが嫉妬する美しい土下座を見て、そんなこと……だと？無理だ……勝てない……この人には一生勝てないのだろう……僕の体白くなっていく気がする……燃え尽きたぜ……真っ白にな……最後に昨日見た幼女の裸が……見た……かった……。

完

そんな訳にいかないので僕は財布を取り出す。

「うぅ……ごめんなさい……３０００円で勘弁して貰えませんか？」

泣きながら僕は頼む。きっとその姿は誰が見ても敗者なのだろう。
でも、それでも僕は！。

「勘違いしないでくれ！！別にかつあげしに来た訳じゃないっ！！
あ、謝りに来たんだ」

「え？謝りに？誰に？僕に？エ？ヱ？」

何故かこの不良さんは僕に謝りに着てくれたようだ……あれ？もしかして早とちり？……もしかしてこれまでやってきた完璧ジャンピング・土下座は無駄だったの？……それはそれで涙が……うぅぅ……

「な、なんで泣く！？」

「さすがあにき、あって数秒でなかせるとは」

「そ、そんなつもりは……！……えーっと……結城さん？」

「……あぃ？ぐずっ……なんでしょうか……」

「……その……大丈夫か？」

「……あなたの染めるのに失敗した髪よりは平気かと」

「地毛だっ！！！！」

「ごめんなさいごめんなさい！！」

「たくっ……って違う！！昨日はスマンッ！小鳩達を介抱してくれてたのに急に話掛けて……本当に悪かった！！」

「……は、はぁ～そうですか……」

わ、悪い人ではないようだ。ぼ、僕もこの人の顔を見ただけで判断したことを誤らなきゃ。でもなんて言う？ごめんなさい？無難だけどこの人ツッコミみたいだし……。

「べ、別に僕も悪かったなんて思ってないんだからねっ！顔だけで判断してた訳じゃないんだからねっ！」

「ツンデレ！？」

やはりツッコミ役みたいだ。キレが違う。懐で１０年間温めて来たネタがここで使えるとは……。僕がまた感極まっているとメイドさんが不良さんに。

「あにき今日はにっちょくだったのでは？」

「……そ、そうだな。じゃあ有難うな結城さん、小鳩達を介抱してくれて。それじゃ」

不良の人は去っていった悪い人ではないようだけど……名前なんて言うんだろ？聞いてなかったや

「あの不良っぽい人……名前なんて言うんだろう？聞いとけば良かったなー……」

「あにきは羽瀬川小鷹です。あにきはふりょうではありません。漢の中の漢です」

「へぇ～って！？もしかして口に出してた！？うっわぁー……恥ずかしい……」

「では、わたくしもあにきの手伝いにいきますので、しつれい」

「さ、さようなら。えーっと楠さーん」

楠さんは音もなく歩いていく。

その日僕は普通に授業を受けて帰った。ん？普通介入するだろうって？何いってんの？僕は少し幼女が好きな一般市民だよ？無理に決まってるじゃないか。……電波が飛んできた……気を取り直して。今日は魔砲幼女ラジカルにゃのはさんがやる日なのだ。パンチラと変身シーンは分けて保存っと……今日は忙しくなるぞー！！

……寂しい……友達が欲しいな。

つづくの？

結城刹那（後書き）

編集っていいよね。
※誤字脱字。お待ちしておりやす

カラオケってアニソンしか歌わないや　その１（&刹那加入フラグ？）（前書き

んーむぅ……。

今原作と混ぜるかオリジナルで行くか悩み中……。

基本原作で偶にオリで行こうかな……。

カラオケってアニソンしか歌わないや　その１（&刹那加入フラグ？）

あれから数日後と特に無く普通の生活をしていた。ゲームやって。アニメを編集して。公園で幼女を見て過ごして。ネットサーフィンして……。あれ？僕ネト充じゃね？

※リアル世界での生活が充実しているのを「リア充」と呼ぶのに対し、インターネット世界での生活が充実しているのを「ネト充」と呼ぶ。

……気にしない方がいいか。今日は土曜……つまり休みだ。家でゴロゴロするのも十分楽しいが……この頃お腹気になるのだ……食っちゃ寝食っちゃ寝の生活だったからそうなるのは必然的な物だが、こういう土曜ぐらいは運動しないといけないと思い、外に出たが……。

「やる事がない……」

何も考えず、外に出て、とりあえず駅だっ！遠夜西駅まで走ってだっ！そんな感じで３０分程度走ったら、用事も無く駅まで着てしまった訳だ。すぐ帰っても良いのだが、足が「もう歩けないよージャンピング土下座並みに痛いよー」と泣き叫んでる……気がする。

もうじき1時。お腹が空いたし。ご飯でも食べるかな?。僕は駅に食料を求め彷徨う……立ち食いそばでもいいから食べたい……。

「結城……さんだったかしら?ここで何してるの?」

後ろを見るとおっぱいオバケがいた。……金髪の。

「おぱ……そうですけど……あなたはどちら様でしょうか……?」

僕は警戒しつつ、後退りを……。

「私?私は頭脳明晰スポーツ万能、そして見ての通り美少女。神がオーダーメイドして造ったとしか思えない完璧な造形美……それが私、柏崎星奈よ!」

初対面に何いってのこの人……。

「柏崎……?あー理事長の娘さんかー……。ならいいか。僕はちょっとジョギングで駅まで走ってきたんですよ」

警戒をとりあえず時普通に接する……。おっぱいを脂肪の塊と思っている僕はこの人の魅力を全く、まったく!わからないが、美少女なのだろう……。

「へぇー。駅までジョギングー……今日これから空いてる?良かったらカラオケに行かない?」

カ、カラオケだと……?……カラオケってあのアニソン歌う場所かな?……ダイエットにも丁度いいし。何か注文すれば腹も膨れる……一石二鳥っっ!!!。

「行きます！是非！是非！」

「そ、そう。……あ、でも…夜空に聞かなくて平気かなー……」

「何勝手に人数を増やしてるんだ。肉」

「あ、夜空。結城さんもいっしょにカラオケに連れっててていいでしょ？」

「これは部活だぞ。入部してない奴が勝手について来てｈ」

「おーい。夜空ー星奈ー。……あれ？結城さんじゃないか。何しているんだ？」

「この肉が勝手ｎ」

「小鷹も結城さんがカラオケについて来てくれた方がうれしいわよね？」

「え？あーそうだな。人数が多い方が楽しいだろうし。」

「僕も着いて行っていいの？わーい」

子供のようにはしゃぐ……だって後ろに幼女達がいるんですもの。今喜ばなくていつ喜ぶって言うんだ！！

「……まあいいか……ふぅ……では、みんな揃ったし行くか」

三日月さんが言って歩き出す……。おおっ？着いて行かなくては。

駅から十分ほど歩いて、僕たちは三日月さんの案内でカラオケボックス『深淵からのよびごえ』に到着した。小鳩ちゃんが小鷹さんに問題を出されたらしかったがどうも答えられなかったようだ。可愛い……。

カラオケってアニソンしか歌わないや　その１（&刹那加入フラグ？）（後書き

眠いから半分に切る……明日でいいや―・・・。

次回カラオケ内部進入編！

カラオケってアニソンしか歌わないや　その2（&刹那加入フラグ？）（前書き

どうも。終始グダグダな和風です。
放置じゃないんですよ？ただ現実が忙しかったのと、次が間違えて
消して萎えたせいですよ？
ゆかりんの歌で癒されながらもう一頑張りしますかな……

カラオケってアニソンしか歌わないや　その2（&刹那加入フラグ？）

深淵からのよびごえって名前、邪気眼臭くね？
いや、悪い訳じゃないんだが、名前って大事な気がするんだ。地味な外装なのに深淵って……不釣合いにもほどがあるだろ。
もっと可愛くだったりカッコイイ名前にすればいいのに、なんだよ深淵のよびごえって……店員も普通だし……ここは店員が全員眼帯に片手は包帯ぐらいしとくべきだと思う。それかゴスロリ美幼女希望！！あ、となりに居たわ。ハァハァ……。

「あ、あんちゃん……なんか視線が……」

「ん？なんだ小鳩」

「……なんでもなかっ！あんちゃんのアホ！」

小鷹が不思議そうな顔で小鳩を見ている。僕は熱い視線を小鳩ちゃんに向けている……いかんいかん！！自重は大事だぞ！！刹那！！で、でも小鳩ちゃんがぷりぷりしてるの可愛いし……。

と。頭の中で葛藤してると。

「は！？」

三日月さんが頓狂な声を上げた。

「？」

あたり前だが、店員も頭の上に？を浮かべている。

「５４００円？何故そんなに高いのだ？」

三日月さん……それ別におかしくないよね？

「なんかあったの？」

柏崎さん達も騒ぎに気づいて声を掛けてきた。

店員は困った顔で、

「ええと、フリータイムお一人６５０円、ドリンクバー２５０円、お一人様計９００円となっておりますが……」

「なん……だと……」

三日月さんが愕然とした顔をする……。

ここから三日月さんと柏崎が詐欺うんぬんって結論に至って部屋を一つづつ入っていった……他人のふり……。

店員が泣きそうな顔で小鷹さんを見る。

「ナンメイサマデスカ……？」

その声やめぃ、おっさんの泣き顔&泣き声なんて聞きたくないよ……。

小鷹さんが普通に部屋を取ってくれて本当に良かった……。

まあそんな訳で5人で同じ部屋なんだが……狭い。

「兄貴といっしょの部屋であればわたくしは料金の十倍払ってもかまいませんでした」

「無駄遣いも甚だしいですね」

「それあの店員に言えば泣いて喜ぶだろうな」

おっさんはもういい。

「先輩先輩。理科、先輩と一緒に歌いたかったです。ガムダンの主題歌デュエットしましょう」

「……SEED……だっけ？　あれの主題歌なら多分わかるぞ。他は知らん」

「ククク……では我は、世界の終焉を讃える暗澹のレクイレムを奏

でるとしよう……。むむ……どこだ……？『ゆけゆけゲルニカちゃん！』は……」

「あれのどこがレクイレムだ」

「なら僕は、ネコふんじゃった♪を……」

「あるのっ！？」

「ないです。在ったとしても歌いません」

正直、この年齢で歌える気がしない。

ふへへへ……密室で小鳩ちゃんと数時間いた……ぐへへへへぇ……っは！！。イカンイカン、トリップしてた。結局あれからずーっとフリータイム終了の午後7時まで歌っていた。

「あー歌いすぎて喉が痛い」

怖っ！小鷹さん声、怖いっ！

「先輩。ちょっと声怖いですよ。でもその声で理科は罵られると（自主規制」

博士みたいな子……ドMなんだね……。

「ぞくぞくするような声ですあにき。わたくしもそんな声になりたいです」

楠さんまでもがなったら僕は死んでしまうので辞めて欲しいです！……。

そんなこと話してフロントへ行くと、フロントの椅子に屍が二体放置されていた。さっ、殺人事件の予感……

三日月さんと柏崎さんでした。どうも二人でランキング争いをしてお互い力尽きたようです。……はしゃぎ過ぎでしょう……。

～その夜～

僕は風呂に入り、パジャマに着替え、寝る準備をしていた。
今日一日を振り返ると、とても下らない理由で外に出ていたが、小鷹さん達とあえて本当に良かった……。
小鷹さん達に出会わなければ今日もゲームしてご飯を食べて宿題して寝るだけだったはずだ。……本当に面白かったなー……。友達がいない僕だけどまた……誘ってくれるかな。

はっ！？宿題忘れてたっ！？

つづける？

カラオケってアニソンしか歌わないや　その２（&刹那加入フラグ？）（後書き

後で又編集しようと思っている。僕は駄目な子

※誤字脱字まってるぜ！感想も欲しいぜ！

休日（前書き）

まだ2巻です。間違えましたカラオケ編の次の日です。

休日

今日は日曜。つまり学校がない。普通だと土日は外に友達と出かけたり、友達とゲーセンに出かけたりするらしい。……いや、よく分からないんだよ？だってさ友達と言える子が一人もいない僕だよ？昨日は偶々会った三日月さん達と一緒に、カラオケに行ったけど、あの後すぐ解散だったからね？確かに三日月さんと柏崎さん達が疲れ果てて帰りたがってたのはわかるよ？小鳩ちゃんも疲れて眠たそうにしてたし解散が普通だったのかもしれないけど……二次会みたいのは無いの？……ないですか。そうですか。

き、気を取り直して今日の予定をここで発表しちゃおうかな！わ、わ～！ぷひゅーぷひゅー（鳴らない）。今日の予定。飯を買って来る。買ったばっかりの『妹パラダイス～イケナイこと……だめですか？～』を犯る。え？字が違う？気のせいだよ。ＨＡＨＡＨＡ☆後は……『妹戦記』……はやったか。じゃあ、『ロリ魂』？も此間コンプしたしなー……んーじゃあ趣旨変えて、ギャルゲーでもやるかなー……ふーむ。そういえば最近、ネットでお勧めで買ったのが有ったな。たしか『ときめいてメモリーディズ７』これもやるかな。あれ？僕って今日忙しくね？

買出しも終わったし、買いに出てる間にインストールしといた『イモパラ』でも犯るかな♪え？字？もういいよ。

ハァハァ……金髪ツインテ幼女萌え……ハァハァ……銀髪幼女シスター燃え……大人びた妹なんて外道じゃああああぁあぁぁああああああああああ

「あ、あんちゃん……私……我慢……できないよ……」
「……お兄ちゃん……私も………」

選択。
「妹に手を出す兄貴なんていうかよ！！逃げる」
「俺がその幻想をぶち壊す！！」
「お、オラも我慢できねえだあ！う、うわぁあぁぁあああ（セーブ推薦」

「……」

いきなりこんな展開！？吃驚だよ！まあでもセーブしーてっと…

…押しちゃいけないって書かれてるボタンがあれば押すよね？

「お、オラも我慢できねえだあ！う、うわぁあああぁぁあああ（セーブ推薦」↑ポチッ

「キャー！！何してんのよ！！↑義母」

「俺はそんな子に育てた覚えは無い！！お前なんてうちの子じゃない！！出てけ！！そして二度と家に近づくな！！↑父」

俺は勘当され、戻る家が無くなった。……まあ当然だよな……俺の人生あっけねぇなぁ……俺は静かに目を瞑り、木に掛けたハンガーで首を吊り死んだ……ばっとえーんど。

「……」

なんだこれ？

そんな訳で俺は妹ハーレムを作り幸せに生きたのさ。～完～

ついにクリアした……ついでにクリアしたのはハーレムルートだ。個別もあるが又今度でいいよね？もう夕方だし、『ときメモ』やるか……。

うばばばばｂｂｂｂｂｂｂｂｂ。感動で前が見えないよぉ……ち、違うわいっ！これは汗じゃけんっ！！……何弁だよ……有希子ルートが素晴らしい！！みんなやってみるといいよ！！あぁ！！この感動どこにぶつければ……え？ロリはどうした？……居なかったよ。

それから、掲示板でちょっとした喧嘩があったが……これはまた別の話。

休日（後書き）

（、・ω・、）

下手でも読んでくれる人が居る限り書こう……そして上手くなろう……！

※誤字脱字感想待ってます。

購買とシスター（前書き）

お気に入りが一件増えました。こんな駄文にお付き合いしてくれる上、お気に入りなんて……心の汗で前が見えません……。

※誤字脱字ここが駄目だここはこうしろ辞めてしまえなど感想をお待ちしてます

購買とシスター

7月上旬。夏休みまであと少しのこの頃。今頃になると、男子達が夏休みどこに行く？などの相談をしているのをよく見る。質問された方の男子は海？プール？ナンパもいいなぁ……と返答していた。

確かに海やプールは定番だ。だが何故ナンパ？

ナンパ。

聞いてるだけだと物凄くリア充臭いが、多分こいつらじゃ成功しないだろう。（失礼）

確かに俺もよく公園で幼女にナンパをするが、いつも失敗しているんだぞ？俺ができないのにこいつらが出来るはずが無い。……言い過ぎかもしれないが、別に昨日のことでイライラしてる訳ではない。

「飴ちゃんあげるからお兄さんと一緒に遊ぼう……ハァハァ」「おかあさんがしらないひととあそんじゃだめーっていわれてるからだめー！」「……幼女万歳。」「……御巡りさん！あの人です！いつも公園にいる女の子に話しかけている変態は！！」「なんだとぉ！？本官が捕まえて見せる！！」「幼女エネルギーがある今、僕はチーターより速い！！」「な、なんだ！？あの速さは！？」「お前に足りないのはッ！情熱思想理想思考気品優雅さ勤勉さ！

そして何より――

速さが足りない！」

……とまあ、こんな感じだったが、逃げに全力を使って幼女ぱうわー（無い）は空っぽなのさ。……こんな日は、小鳩ちゃんを見たい……でもあの子は高校生じゃないみたいだし……。

ぐぅ〜……。

腹の虫が泣く。気づけば授業は終わっており、昼休みのようだ。今日は朝、寝坊したお陰で弁当がない。僕は入学して初めて購買に出向く羽目になったのだ……。

道は覚えてる。僕のクラスから購買はそう遠くない。なのでゆっくり行こうと思っていた。しかし、僕は思い出してしまったのだ。学園系の漫画の購買を。あれは空想なのは知っていたが、実際目の当たりにしてしまった僕は目を疑った。

そこはまさに戦場だった。皆パンを求め、購買のおばちゃんに詰め寄る。血の代わりに、パンとお金が飛ぶ。……もしこれがゲーム化したら名前は『真・おばちゃん無双』だな。ぶぷ。っとと僕の至高のお笑いセンスで忘れかけていたが、パンを買いに来たんだった。えーっとあんぱんあんぱんーわーっと……

今ここで言うことではないが、僕の中でパンと言えばあんぱんだ。一日三食あんぱんだったこともある。それくらい好きなのだ。あんぱんが！どこぞのパン屋の娘もいってたろ？……ほらっ学校への坂道の途中で「……あんぱんっ！」って。何ぃ！？わからないだと！？あの名作を知らないとは……人生の半分はそんしているぞ？……じゃあ喩えを変えよう。某銀の魂の某新撰組にいる山崎が……ってあいつ別に好きじゃなかったか。

結果？買えたよ。さすがあんぱん。いつも残ってるよね。
さてどこで食べるかな。教室？駄目だ。ハエが集って来る。トイレ？あそこは駄目だ。臭し、何より惨めだ。なら……外……がいいかな。屋上と言う線もあるのだが、僕は高所恐怖症だ。僕のミニマムハートが壊れるから却下である。

そういう訳で外です。校外にはでませんが十分な広さです。野球が出来そう。よくやったんだよね～。一人野球。
どこで食べようか特に考えて無かった刹那は、とりあえず木陰を探すことにした。大きな木を見つけた刹那はそこで食べること決め、木に近寄る。が、先客がいた。
高山マリアである。シスターである彼女が何故このような場所で昼寝していると言うと、簡単だ。サボりだ。彼女はいつもシスターの仕事をサボって校内をうろついていて、よくババァこと姉のケイトに叱られている。それでも反省しないマリアは今日もサボったようだ。が、刹那は今、マリアを凝視している。
幼女が寝てる幼女が寝てる幼女が寝てる幼女が寝てる幼女が寝てる幼女が寝てる幼女が寝てる……ハァハァ。

一種のホラーである。きっとマリアが見ていたら逃げ出すような顔であった。

っは！？何を僕は馬鹿なことを！？……Ｙｅｓ！幼女！Ｎｏ！タッチ！がロリコン界の基本だろうに……！なんと浅はかな考えを……。

そ、それにしても可愛いなぁ……うへへぇ……す、少しなら触っていいよね？いいよね？

僕は正座でマリアの前に座り手を伸ばす……。

だ、駄目だ！このままだと僕のＹｅｓ！幼女！Ｎｏ！タッチ！が崩れ去ってしまう。刹那は立ち去ろうと立つ。

ガシッ

あんぱんが掴まれた。放さないぃぃぃ！……可愛らしい上、神々しい手を触ってしまった僕は、脳内に危険のサイレンが鳴る。あんぱんより、犯罪に走る怖さが上回りに僕はその場から逃げだした。

昼飯が無くなった。ぐぅ〜。

購買とシスター（後書き）

山崎春のパン祭りだよぉと言うセリフが耳から離れません。

残念会（&刹那加入フラグ？（前書き）

また一件お気に入りが増えました！！ありがとうございます！
…ん？一話につき一人づつお気に入りが増えてるような気が…はっ！？１００話を超えたら１００人登録してくれるのか！？１０００話書けば１０００人！？
……無理です。ごめんなさい。調子乗ってました……。

※誤字脱字感想その他、お待ちしております！

残念会（&刹那加入フラグ？

今日、7月20日は学校の最終日だ。みんなが海だー、プールだー、と浮かれてる日それが今日なのだ。その中の一人が僕でもある。夏休み……誰にも怒られる事無く、ゲームやり放題。寝放題。外出しないでよしの良い事尽くめ。

それと宿題は一週間目で終わらせるつもりだ。中学校までそうやって来たし。これからも変える気はない。だから今日もさっさと帰って、家で宿題を終わらせるつもりだった……。そう……だったんだ……。

「結城君。君はこれから暇かい？」

「先生。いくらモテないからって生徒に手を出さないで下さい。後、暇じゃないです。」

僕の教室の先生。三十路……じゃない。お姉さん先生だ。

「ちょっ先生先生！？いきなりアイアンクロー酷くありまっいただだぁっ！？」

「君は今、心の中でも失礼なこと言っていただろう？その文もプラスする……」

「せ、先生！？目が怖いです！？後考えを読まないでくれませんか！？」

数秒でアイアンクローが解放される……。これは体罰なのだろうか？訴えれば勝てるのでは？

「先生は生徒のことならなんでも知っているぞ。お前が１８禁のコーナーでエロｇ」

「ワ、ワー！！ワー！！分かりましたから！！暇ですから辞めてください！！」

何故僕のトップシークレットを！？

「分かればいい。……そう時間はとらせんよ。簡単な仕事だし。力仕事だから女子には田頼めんしな。」

「……で？何をするんです？何かを探すんですか？それとも校長のカツラを盗むんですか？」

「あそこにあるダンボールを礼拝堂にある倉庫に持っていくだけさ。

なに１０個程度だしすぐだろう」

山ずみのダンボール……一つ一つがかなり大きく。どう見ても重そうだ。

「はぁ……分かりました。分かりましたよ。頑張ってみますよ……こりゃ明日筋肉痛で動けないかもなぁ……」

「じゃ。頼んだぞー」

「え！？先生！？手伝ってくださいよ！？ちょ！？聞こえてるでしょ！？ねぇ！？おい！歳ｍ……」

痛っ……あれ？なんで僕廊下で寝てるんだっけ？確か先生にこれを頼まれて先生が逃げてぇ……だ、駄目だ……思い出せん……。ふぅ……仕方ない……僕一人でやるか……重っ！？

～1時間後～

……ひぃっひぃっふぅっ……！！ひぃっ……ひぃっふぅっ……！！つ、疲れた……あまりの息切れにラマーズ呼吸してしまった……だかこれで全部だ……やっと帰れる……

僕は息の乱れを直し、礼拝堂にある倉庫から出る……ん？あそこだけ騒がしい……たしか隣人部だっけ？一回だけ入ったことあるけど。あの時は事件現場っぽかったからあまり見てなかったんだよな。夏休みに入るし、当分美幼女達を見ることもないんだよなぁ……み、見たいなぁ……い、いいよね？別に……。

ドアの前で入るか入らないか悩む……あ、でも勝手に入って「何こいつキモ……」なんて言われたら……ああ……でも小鷹さんはそんなこと言わないだろうし……う、うーん……。

や、やっぱり帰ろう！。そうだよね、無暗に嫌われることなんてないよね！。そう思い、僕はドアのぶから手を離した。

バタンッ！！

「アホー！夜空のアホーーッ！！ッキャッ」

「……ぷげらっ！？■○▲ΔΣ♪×」

何かが僕の溝に直撃した。あ、あまつさえ……股間にまでもダメ

ージが……。

「……ふぐぐぅ……」

「肉……お前……」

「え！？、私のせい！？」

「理科が見るに溝は頭で、股間は足で蹴り上げてましたね」

「お兄ちゃんなんであいつたおれてるのだー？」

「い、いや。なんと言うかそのー……」

「あんちゃんに近づくなアホーッ！！」

「……あにき漢の道はけわしいのですね」

「ちょ！ちょっとこいつ泡吹いてるわよ！？」

「肉……」

享年１７歳。結城　刹那　股間への衝撃にショック死。短い人生だった……。完。

いや生きてるよ？股間打っても、数分すれば平気になるし。

「ひ、酷い目にあった……婿に行けなくなったらどうするつもりだ！！」

自分が半分悪いことを忘れ、怒っています。

「肉。その場合責任は取れよ？」

「うぇ！？私はこんな男興味なi」

「肉のせいなのにか？」

「うぅ……わ、わかったわよぉ……」

「ごめんなさい。それは丁重にお断りします。」

「……う、うわぁーん！！よく分からないけど振られたーッ！？」

あ、柏崎さん……そうやって走るからぶつかるのでは？

「……ふぅ……。毎度毎度しょうもないやつだ。」

三日月さんはすごく呆れた顔で柏崎さんが出て行った扉を見る。

……で、僕の方に向きかえって。

「で？貴様は何故またここにいるんだ？」

「え？えーっと……よ」

幼女が見たくて来たなんて言えないよなぁ……ど、どうしよ……。

「よ？」

「よよよ、用が有っててて……？」

「ほぅ……それで？その用と言うのは？」

み、三日月さんが不愉快そうな顔になって来ました！？や、ヤバイ！？怖いぞ！？

「よよ、用とは……」

「だから用とはなんなのだ」

うぇえええ！？どうしよどうしよ！？何しに来た！？幼女を見になんて言えないし……ついふらふら～っと……僕はそんな変な奴じゃないし……えええっとぅ…り、隣人部？部？そ、そうだ。

「にゅ、入部し、しちゃおうかなーっと……え、えへへ……」

「お前がー？」

うわ。眉間に皺寄ってますよ！？これが不良たちがやってるガンという奴なんでしょうか！？い、いやこれは殺し屋の目じゃッ！？

「夜空。入部したと言うんだからさせてやればいいじゃないか。此間も一緒にカラオケ行った中だろ？」

「……小鷹……く、じゃあテストしてやる……それに答えられれば入部を認めてやる。それでいいな？」

僕は無言で首を縦に振る。テストなら適当に間違えれば……生きては帰れるだろう。なんか自分で言ってて不安だ……。

「これを見て、本当の意味を探してみろ」

え、えーっと…

隣人部

とにかく臨機応変に隣人
とも善き関係を築くべく
からだと心を健全に鍛え
たびだちのその日まで、
共に想い募らせ励まし合い
皆の信望を集める人間になろう

絵には富士山っぽいとこの上でおにぎりに顔が生えた物を食べようとしてる化け物の絵で真ん中の奴が「部員募集中だよ」と言っている……

はっきり言ってこの時点で正解が分からない……つまり下の絵が正解に近いのだろう。っふっふっふ。明智君。正解が分かったよ。ズバリ！山に登っておにぎりを食べる部活だろう！……僕の天才的才能が憎いぜ……正解が解ったことだし。後はなるべくユーモアがある答えをださないと……ん？これって……僕本当に天才なんじゃない？これなら笑って見逃してくれるだろう！

「解りました！」

「ほぅ……それで答えは？」

「夜空……この問題はいくらなんでも……」

僕は自信満々な笑顔でこう言ってやった！

「これ斜めで読むと、ともだち募集って読めますよね？なので答えは友達を作る部活です！！」

……空気が凍った。お、おかしいぞ！？な、何がいけなかったんだ！？完璧にユーモアのある答えだろうに！？三日月さんの顔はさっきまでのニヤニヤ顔のまま固まって動かないし。小鷹さんはまるでチュパッカブラでも見つけてしまったような顔でこっちを見てる！？……要約すると驚いた顔だ。

「せ、」

「……せ？」

「正解だ……」

は？何それ。怖い。

残念会（&刹那加入フラグ？（後書き）

一話に着き、２時間掛けてる……き、きのせいだよね？

僕。平気。生きてる。

入部（前書き）

うー…続きが浮かばないのに更新って……
短くなる可能性がでるのになぁー……

※誤字脱字感想。その他色々お待ちしております。

入部

「……すいません。もう一度言ってもらえませんか？僕の耳が壊れてしまったかもしれないので……」

「正解だと言っているっ！！同じ事を二度も言わせるな！！」

……読者の皆さん……大変です。選択ミスってしまったみたいです……今更、入部なんてしたくないッ！幼女が見たかったんだッ！！なんていえません……。ロリコンというカミングアウトも早い気がしますし。

「わ、わーい……う、嬉しいなー！」

「そう言う割には全然嬉しそうじゃないな……」

「そそそ、そんなことにゃいですよ！？めっちゃっぱねぇほど嬉しいっす！」

「そうか？ならいいんだが……」

「お、お兄ちゃん……イ、イケメンがいるのだ……」

ん？シスターちゃんが震えながらこっちを見てる？……怯えてる？僕に？

「あ？ああ、結城「刹那でいいですよー僕は小鷹さんって呼んでま

すし」そうか。せ、刹那がうちの部活に新しくはいるみたいだぞ？」

「よろしく！シスターちゃん！！」

僕ができる最高の笑顔で握手をしようと手を伸ばｓ

「ギャーーー！！食べられるーーー！！」

「食べないよ！？」

シスターちゃんは僕の手を払いのけ、教室から逃げて行った……心が折れるぜぇ……。

「……えーっと……悪気はないと思うぞ？」

「いいです　きにしてませんから　しょせんじぶん　ようじょからもにげられるような　あぶないやつなので……」

阿波ばばばばばばっばあっばばばばばあｂｂｂｂｂ

「……ふむ……おい。刹那。明日から部活には出れるよな？」

「え？え、ええ！で、でれますとも！三日月「夜空だ。隣人部の掟だから皆も下の名前で呼べよ？」……あー……はい……夜空さん……」

ツミゲーとか消化しきれるのかなぁ……。

ん？明日から？

「えーっと……明日から夏休みですよね？部活……あるんですか？」

「当然だ」

「毎日？」

「ああ」

「……そーですかー」

残念な部活に残念な人がまた一人。入部。

入部（後書き）

絶対短いよぉ……

前回、なんであんな場所で区切っちまったんだろー……

次回から夏休み編。つまり原作三巻あたりです。

幼女は愛でる物（前書き）

頑張れ！俺！
お前ならきっとできる！これが終わったらゲームやろうぜ！
……励ましてみた……自分を

幼女は愛でる物

「熱い……脳が蕩けるうぅ～……」

夏休み一日目。

普段通りの夏休みならクーラーの効いた部屋で一日中ゲーム天国だった……だけど違う。

僕は『隣人部』と言う部活に入ってしまい、夏休みを殆ど、使ってしまうこととなった。

……ポジティブに考えよう……夏休み中あの幼女達と一緒にいられるのだ。ロリコンとしては最高と言っても可笑しくないヘブン（天国）なのだろう。うん……きっと。

電車とバスを乗り継ぎ、1時間。聖…あー？なんだっけ？まあいいや。集まる時間などは聞いてなく、部活があるとだけ聞いていた僕は昼飯を食べて来たから丁度2時だ。僕は部室まで歩いてゆく。

～妄想中～

うへっへへ……小鳩ちゃん来てるかな…マリアちゃんはいるかな

ぁ…グヒヒ。
そんな邪なことを考えてる間に、部室に着いた僕はとりあえず入る。
「……失礼しまーす……」
部屋に入るとメイドさんこと雪村さん。夜空さん。シスターちゃんことマリアちゃん。後……えーと……肉さん。
「ちょっと!?今私のこと変な風に呼ばなかった!?」
「気のせいだろ。肉」
「そうですよ。肉さん」
「そ、そう。それなら良い……訳あるかァァ!?なんでアンタまで肉って呼ぶ訳!?」
え?本名じゃ
「え?本名じゃ……」
「違うわよォォ!?」
「いや、合ってるぞ。刹那。そのまま呼んでやれ。恥ずかしいから誤魔化しているんだ」
「あ。はい!解りました!」
「わかるな「またイケメンがおる!?」ァァ……」

昨日と同じように震えだすマリアちゃん……もしかして僕のせい？

「……ふむ……刹那。ちょっと耳を貸せ」

一瞬考えるような顔した夜空さんが急に不適な笑みを見せ、僕を呼ぶ。僕が近くまで行くと耳に小さい声で話し出す。

「ごにょごにょ」

「え？え？うえ！？」

「うにょうにょごにゅごにゅ」

「それでマリアちゃんと仲良く成れるんですか？……ふーむ」

まあやっても損はしないだろうし。んじゃ。

「マリアチャンマリアチャン」

「ッ！？何なのだ！？こっちくんな！？」

「オレサマ、オマエ、マルカジリ」

「ギャーーーーーーッ！！！！」

……どう考えてもイケメンのセリフではないと思うけど、マリアちゃんは泣きながら逃げ始める……当然僕は追いかける

「うわーん！イケメン来るなーっ！！」

「オレサマ、オマエ、ナメル、ベロベロ、ナメル、オマエ、ホネスラノコラナイ……」

「美味しくないですから！！私飴みたく甘くないですから！！」

マリアちゃんはゲームをやってる肉さんの後ろに隠れる……肉さん不貞腐れてゲームやってたんですか……

「食べるなら星奈のほうが美味しいです！きょにゅう美人なので！」

「他人を身代わりにするシスターが何処に居るのよ……」

肉こと星奈さんがジト目で見る。……星奈さんって名前を今思い出したが、肉さんのままでいいか。

「オレサマ、デカイオンナキライ、ヨウジョガイイ」

「犯罪者みたいな人だったのね……刹那って……」

「え？い、いや成り切ってるだけですよ～。あっは。あっはっはっは～」

次に雪村さんの後ろに隠れる。

「雪村ならどうだ！？きっとおいしいぞー！」

「……後2歳若ければなぁ……ア、チガウチガウ、オレサマ、ネラッタエモノハニガサナイ……ハンターデスカラ」

「ギャーッ！イケメン怖いよーーッ！」

「ヤッパリ、オレサマ、オマエ、マルカジリ」

悲鳴を上げながらマリアちゃんは部室を飛び出していってしまった。

「イケメン　爆発しろーっ！！！！」

ばたんっ

「……やっぱりマリアを弄るのは楽しいな」

「性格悪いですよ。夜空先輩……」

「お前だってノリノリだったろ？」

「気のせいです。僕はファミニストですよ？」

つづけ

主人公の設定って……必要だよね（前書き）

本当は設定とかいらないと思ったんですが
キャラブレに繋がるような気がどんどんしてきて……
本編じゃないので飛ばしてくれて結構です＾＾；

主人公の設定って……必要だよね

名前　結城　刹那　（ゆうき　せつな）
中二臭い名前。元々はノーネームだったのでその場でてけとーに考えた名前。
今ではかなり後悔……後の祭りだね。

とある三国歴史シュミレーションゲーム風にすると
統率６４　武力３　知力６２　政治４６　魅力９９
劉備と同じ魅力って…

身長１７０程度　スリーサイズは…いらないよねｗ　体重は５０くらい
顔は上の中　茶髪だが染めたのではなく、地毛　髪型は…作者が詳しくないないので、某種のキラさんだとでも思っててくれれば万事ＯＫです

血液型はＢ型　１２月２１日生まれの　いて座

趣味　表向きは読書（主に三国志　銀河○雄伝説を好んで読む）
　裏はエロゲー＆アニメ編集　読書はオタクがバレて「え？何あいつ…キモーイ」など言われたく無い為。

好きな物　幼女　薄味のとんこつラーメン　ガム

嫌いな物　媚びてくる奴　巨乳　臭いが強い物（餃子など

特技

神編集　Ａ＋

・編集作業に魂を込めて来た人間だけが出来る奥義。コンマ０秒もズレない。

問題即答　Ｆ（幼女が関連すればランクが５上がる）

・通常時だとそこまで早くないが、幼女が関連するだけで能力が跳ね上がる。

家庭環境　父　母　姉　犬　の四人家族？とある事情により家に居ない。

小学校高学年の冬から一人暮らし。

あれ？これって必要？ない方が良かった？
あんまり書くとネタバレになるし…これでいいかw

ベントウ（前書き）

６巻発売されましたね！
速攻で読みました。皆さんも「はがない」６巻買ってね！（宣伝

ベントウ

あれから1時間。
マリアちゃんは部室に帰って来ていた。
こっちを軽く警戒しつつ、ソファでポテチを一枚一枚ゆっくり食べ初めた。

……あぁ……もふもふしたい……今度餌付け……ゲフンゲフン
……何か買って来て上げようかな。あ、でも警戒されてるし……
・むーん。

そんなことを考えていると、部室の扉が開いた。

「あ、あにき」

部室に入ってきたのは小鷹さん。あれ？小鳩ちゃんは？いないの？

「おう」

小鷹さんは挨拶を返し、扉を閉めた。

「やっと来たか小鷹」

本を閉じ、不機嫌そうな顔で小鷹さんを見る。僕もそれに便乗して言う。

「遅いっすよ。小鷹さん。後、小鳩ちゃんは？」
「やっとって……いつも通りだろ？後、小鳩は来ないぞ」
なん……だと？
「なんっ！？なんですとー！？……ック！邪気眼幼女エネルギーが不足してるぜぇ……」
「……ふん。夏休みなのにいつも通りに来てどうする」
「んこと言ったって……お前らはいつ来たんだ？」
スルーですね。わかります。
「僕は一時間ぐらい前ですね。その時は全員揃っていました」
「一時くらいだ。私が来た時には肉がゲームをやってた」
「星奈のあねごは夜空のあねごの少し前にこられました」
「みんな早いんだな……。雪村は？」
「わたくしは８時です」
「はあ！？」
小鳩ちゃんがいない……い、いや！でもまだマリアちゃんがいるから平ｋ……めっちゃ警戒されてるよ……

ん？マリアちゃん？先までポテチを食べていた筈のマリアちゃんはいつの間にか、小鷹さんの方に行っていた。

「なーなーお兄ちゃんそれいらないのか！？」

めっちゃキラキラした目で総菜パンを見つめていた。

「あれ？……もしかしてマリアは昼飯食ってないのか？」

「だって今日はお兄ちゃんが弁当を持って来てくれなかった……」

！！も、もしかしてこれって仲良くなれるチャンスじゃないでしょうか！？俺がここで「明日から俺が作ってやんよー！！」って言えば高感度鰻登りだよね！？

「マァァアリィィィアァァァチュウウウウアーーーン！！！！」

「ギャーーーー！！食われるぅぅ！！！！」

あ、あれ？小鷹さんの後ろに隠れちゃった……。

「刹那……あまりマリアを怖がらせるなよ？」

あれれー！？ただ名前呼んだだけなのにー！？

「え？ぁ！？っいえ！あの！……ご、ごめんなさい……」

どうしてこうなった……

お詫びとして夏休み中は僕がお弁当を作ってあげる事になった。ま、まあ結果オーライだよね？……そういうことにしてください……。

ベントウ（後書き）

更新スピードが下がるー……
ただでさえ駄文以下の糞文なのにー……

とある夏休みの日常？（前書き）

適度にシリーズ化するかな……。
人気なんて僕の駄才じゃでないし……。
適当に弾けますか！

とある夏休みの日常？

翌日。
僕は朝からお弁当を作っていた。まあ冷凍物しか入ってないけど、それなりに豪華だ。
ハンバーグ、唐揚げ、プリン、ほうれん草の炒め物（これだけ手作り）、海苔ご飯、ミートボール……ついでに、プリンが弁当の真ん中に鎮座してるのは俺流だからだ……。

いつも学校で購買に行き、適当に買った物を、適当な場所で食べて、適当に昼を過ごす……。
普段の学校のある日には弁当なんて作ってる暇は無かった。オンラインゲームで徹夜した頭に料理なんて言葉は浮かばないしね。しかし、今は夏休みだ。つまり学校の授業は無い。

確かに去年の今頃はきっと昼夜逆転の生活を送っていた。しかし、万年帰宅部の僕もついに部活に入った。いや、入ってしまったが正しいか。そんな訳で、積みゲーも消化し切れず溜まる一方なのに今日も僕は学校に行く。勿論弁当を持って。

ん？弁当が何故二つかって？グヒヒ……前話見てないだろ？

約二時間の道のりを越え、僕はついにｍｙエンジェルが居る筈の部室まで来た。
僕は軽く、胸を躍らせつつ部室のドアに手を掛けた。

「ｍｙエ…」
「あ。……せつな殿」
部室に居たのは、雪村さんだけだった……。しかも小鷹さんじゃないからって……。
「えーっと……ｍマリアちゃんは？」
「おしごとです」
「そうですか（，・ω・、）」

かくして、弁当で仲良くなっちゃお！作戦は失敗したのだった……。

いやいやっ！？これで終わったら短すぎるだろ！？お弁当も腐っちゃうし……。二個は流石に食えないしなぁ……量多めだしな両方とも……。

弁当はスタッフが美味しく頂きました。なんて書いて置かないと苦情着そう……。
ん？そうだ！雪村さんに食べて貰えば！
「雪村さん！よか」
「もぐもぐ……？」
……ですよねー。朝から居て自分の弁当が無い筈がないですよねー。
あっちは手作りの和風弁当だし……ほぼ冷凍物の弁当なんかあげられないよなぁ……。
「あー。なんでもないです……」

そして……。
「…ッヒ…ッヒ……！…ッフゥ！ッヒ……ッヒ…！…ッフゥ！……うぷっ」
「……食べ過ぎにラマーズ呼吸法をしても意味はないと思うぞ？」
「夜空さん……吐いていいですか？」

「帰れ」

とある夏休みの日常？（前書き）

短いよ！続くよ！

とある夏休みの日常？

あれからマリアちゃんと会えない日のことを考え、弁当の量を少し減らした。

……いやね？あの日はあまりにも踏んだり蹴ったりだったんですよ？食べすぎで吐きそうになるわ。夜空さんには部室から追い出されるわ。鎖につなぎ忘れられた犬に追いかけられてペロペロされるわ……溝に嵌るわ……。

某不幸フラグメイカーさん並みの不幸ではないだろうか？え？まだ甘い？そんな馬鹿なこ……マジですか……ごくっ。

夏休み。中旬の休日。部活は無い。宿題は？

「大丈夫だ。問題ない」

先に終わらせて置いた。

空は快晴。先日、自分の部屋のクーラーは壊れてしまった。修理に来るのは明日。つまり今日は！

「リビングでエロゲーをやろう」

……主人公は駄目人間だったようだ。

「…っち。嫁（ＰＣ）が不調だと？……はぁっ。仕方ない……外に」

…前言撤回。主人公は駄目人間では無

「…確か駅前に初めてネットカフェが出来たらしいな…行くか」

主人公が残念すぎる……。

僕は駅前に着くと、目当てのネットカフェを探した。

1時半。ネットカフェに行くのは十分過ぎる時間だ。

最寄の駅に初めてネットカフェが出来たことを知ったのはつい最近だった。学校帰りの途中でティッシュを貰い、それに着いてた広告で知ったのだ。広告にはそのネットカフェに持っていくと10%オフと書いてあった。

勿論、僕はそのティッシュを持って来てる。

広告には場所もちゃんと明記されており、僕は読んだ。

「何々？…駅から徒歩五分……○○屋の隣にできたのか……アソコは確か松○だったなぁ……それがネットカフェか……時代を感じるなぁ。」

その他にも色々書いており、なんでも7月下旬オープンとか。

「……下旬？」

事前に確認はしっかりね！これお兄さんと約束だよ☆

とある夏休みの日常？（後書き）

ゆっくり更新☆

とある夏休みの日常？（前書き）

長いので切るよ。

後、暇な日に基本更新なんで、そこんとこよろしゅうに

とある夏休みの日常？

盲点だった……まさか、開店すら、していないとは……

「はぁ……。真っ直ぐ帰っても、つまらないし……道草でも食いながら時間を潰すかな……」

ネットカフェがなければ駅に用事はない。だってそうだろ？食べ物を買いたいなら近くのスーパーで買った方が安いし。雑誌なども近くのコンビニで買えばいい話だ。

まぁ、そんなこんなでいつもと違う道で帰ったんだ。

「…どうしてこうなった」

僕は頭を抱え嘆息する。簡単に説明すると、幼女を見つけて、つい……道に迷ったのだ。

だが、僕も高校生。周りの人に道を聞けばいいことを知っている。人通りが少ない道だが、偶然にも一人は居た。……知り合いで非常に残念な人が。

「……はぁはぁ…」

構わなくていいよね？電柱に情熱…または性欲をぶつけてる人に道を聞くなんて間違ってるよね？それにホラ。あれだよ、チミ。あんなに一生懸命な人を邪魔していいのか？いや、駄目だ！…フラグ？まずはそのふざけた幻想をぶち壊ｓ

「…ん～。やっぱり電柱は微妙ですね。くっ付いても熱いだけですし。やっぱり机の角が一番なんですかね？」

なんかコメントしてるよ…。関わりたくねェー……。

「そこんとこどう思います？刹那くん」

……こっち見んな。他人のフリ…もしくは別人のフリで押し通そう。

「誰ですか？刹那？僕は田中太郎ですが？」

「ふむ。つまり先まで幼女を尾行してた刹那くんではないと？」

「……なんのことだかさっぱり……」

「理科は部員には優しいですが、ストーカーには厳しいですよ？」

「……つまり？」

「この携帯で録画した物を交番に見せに行きます」

……。……。

「……やぁ！理科さん！こんなところで奇遇だね！実は僕、迷ちゃって、道を教えてくれませんか？」

「本当に奇遇ですね。そういえば、先ほど面白い物を手に入れまして」

「へぇ？なんですか？見せてくれますか？」

「いいですよ。先ほど幼い子の後ろからずっと着いて来てる人が居たので、つい、撮ってしまった物ですが」

ッヒョイ　削除っと。

「あ～。ごめん。間違えて消しちゃいました。ごめんなさい。てへっ☆」

ワザとらしくペロッと某女の子の真似をする。

「いいですよ。バックアップは撮ったので」

「！？」

……なん……だと！？

とある夏休みの日常？（後書き）

理科って…難しいよね

とある夏休みの日常？（前書き）

長編（笑）もついに終わり。

…実は７話から１０話ぐらい引っ張る予定でした…。

とある夏休みの日常？

前回までのあらすじ……
Ａ．Ｃ．１６５年…。
コロニーの住民は革命の狼煙をあげた…。
「これよりオペレーション『ラグナロク』を開始する……！」
始まってしまった戦争…。
地球。
「母さんっ！！…逃げようよ！こんなところにいたら戦争に巻き込まれるよ！！」
「……母さんはここで死ぬ運命なのよ…。あなただけでも逃げなさい。どうせ、私の命も後半月よ…」
戦争から逃げることを進める主人公。それを拒否する母…。
ついに戦争に巻き込まれる主人公…。

「僕が何をしたって言うんだよ……。そんなに戦争がしたければ、誰も居ない所でやってくれ！！」

そして……主人公は出会ってしまった…自分の人生を大きく狂わせるあれに…。

鍵を握るは三体のモビルスーツ…。

真機動戦記ガンダムL…。

作者の文才が上がれば掲載予定…。多分無理。だって嘘予告だもん。

…なんか全然関係ないあらすじだった気が……

「もう理科のＰＣの方に送信したので、いくら消されてもノープログレムです」

「……姫。この罪深き罪人に御慈悲を……！」

その場でジャンピング・土下座をする。…恥？そんなの母体に忘れてきたよ！！つか、アスファルトが鉄板のように熱い……。足の火傷は避けられないだろう。

「……今度。理科のお願いを聞いていただけますか？」

「っは！この結城刹那。誠心誠意お答えできるように頑張る所存です！」

額を地面に擦り付ける。僕はカ〇ジにでてくるあの人と同じことを自分の意思でしてしまってる…ような気がした。

「ふーむ。……では今回のことは見なかったことにします」

「ありがたやありがたや」

ふぅ……ロリコンってばれたらあの学校には居られないしな……。危ないところだった……。

「ところで、刹那くん」

「はいっ。何でしょうか？姫。」

「とりあえず姫って言うの辞めてください。…道に迷ったんですか？」

「ＹＥＳ」

正確には幼女に釣られてだが。

「そうですか。ですが、困りましたね」

ヱ？

「え？」

「いや、だって。理科も迷子ですし」

それから二時間掛けて、駅にもどりましたとさ。おしまひっ！

とある夏休みの日常？（後書き）

ラストは誤字だけど、ネタでもあるんだよ！奇跡的になったんだよ！

記憶の欠片（前書き）

後の方は浮かぶのになぁ…

記憶の欠片

○月○○日
おかおさんっ！しょうがっこうでもね。ともだちがいっぱいできそうだよっ！あしたはともだちがひみつきちをおしえてくれるんだ～！…え？おかあさんにもおしえて？……ダメだよ！ひみつなんだから！

○月○○日
おとうさんっ！きょうね！ともだちとむしとりにいってきたよ！あのね！セミがね！かごいっぱーいになったんだよ！カブトムシのメスもいたよ！ほらっ！……え？ゴキブリ？

○○月○日
おねえちゃんっ！おれのぶどうたべたでしょ！？かえしてー！かーえーしーて！！

……お、おかあさんーーーッ！！おねえちゃんがゆびをのどにつっこんではきだそうとするーーー！？

○○月○○日

ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさい

ぼくがきえちゃえっていったからみんなが……

これからはいい子にします
おかあさんにいたずらをしません
おとうさんのぶゆうでんもねないでききます
おねえちゃんがかってにぼくのデザートをたべてもおこりません
だから…だから……

みんなをかえしてください

おねがいします…

～♪画面ライダー　プレイト～♪

オンドゥルルウラギッタンディスカー！！

「ＺＺＺｚｚｚ……ぬっころフェイス！？」

僕は謎の言葉と共に目覚めた。まだ朝にもなってない時間。いつもなら爆睡または徹夜の時間帯なのに起きてしまった。

だが、なんで起きてしまったかは覚えていない。…けしてぬっころフェイスを思い出したからではない……。

僕は服が汗でびっしょりになっているに気が付いた。夏場なのでクーラーを付けっぱなしなのに何故だろうか？思い出せないが、思い出せないと言う事は特に思い出す意味がないことなのだろう。

まだ早いことも相まって、僕は布団に戻った。……次の夢は幸せな夢で有って欲しい物だ。

ブーブー…

『メール　一件』

記憶の欠片（後書き）

とりあえず更新

プール（前書き）

サボりました。
ええ。夏休みは食っちゃ寝ー食っちゃ寝ーしてましてたとも！
ふざけんじゃねぇ！こんな小説二度と見てやるか！という人はバック推奨
暇だからいいよ（＾ω＾）って言う人は見てってください！駄文ですが

プール

ブー。ブー。

「むにゃむにゃ……カツカレーのルーは混ぜないほうがうま……ｚｚｚ」

１０分後。

ジリｚジリｚ「うっせ！」バチッ

５分後…。

「……後２４時間～……ぐぅー」

ブー、ブー、ブー、ブー、ブー、…

「……ッチ……誰だよこんな朝っぱらから……（１０時）

はいはい。ふぁ～……もしもしぃ？結城ですが？ｚｚｚ」

「……刹那……。私をこの炎天下の中で後どのぐらい待たせるつもりなんだ……？」

ちょっと怖いけど綺麗な声でまるで夜空さんみたいな声だな。……ん？

「ん？」

「あ〝？」

「なんかよく話がわかりませんが、すいませんでしたー！」

「はぁ……まぁいい……。私達は先に行ってるぞ……」

そういうと切れてしまった。はて？先にとはなんのことでしょう？携帯の画面をもう一度見るとメールが3件とあった。

勿論、メールなどほとんど貰わない僕。すぐ誰だ！？と急いで確認した。

タイトル無題　夜空さん　昨日の１０時

明日は隣人部でプールへ行くことになった。着たければ勝手にこい。

タイトル無題　夜空さん　今日の９時

…場所は竜宮プールだ。

タイトル無題　夜空さん　つい先ほど☆

は　や　く　し　ろ

……で。電話かぁ……。昨日は前日の徹夜のお陰で早めに寝たか

らなぁ……。……ん？

隣人部でだと？ってことは……小鳩ちゃんとマリアちゃんが……。水着だと？

何固まってるんだ！俺は！急げ！時間と幼女は待ってくれないＺＥ☆

……家から竜宮プールはかなり遠く、みんなから１時間遅れてついたとだけ報告しとく…。

プール（後書き）

短い…上に適当…

ごめんなさい。主は駄目な子なんです…。

遅刻（前書き）

アニメ始まりましたね。見ましたよ。
七巻も発売しましたね。金がない…。
更新が途絶えてましたね。サーセン。
いやね？更新しようとしたんですよ？ただ…続き書こうとすると読みにくくて、消すこともしばしば……なのであることを思いつきました。

前みたいに投稿した後、編集すればいいんじゃね？
…一話から修正したいのに……。頑張るかぁ…。

遅刻

真夏の昼前……。それはとても暑く、汗が滴る気温。

「……暑い。いや……最早、熱いが正しいか？冷房育ちの都会っ子である僕を舐めるなよ……溶けるぞコラぁ……」

実際に溶ける訳では無いが、熱中症になるであろうこの陽気に僕は半泣きだった。

バスに揺られて一時間弱。現地である竜宮プールに到着はしたものの、ごった返す人々を見た時は目眩がした。……この中から小鷹さんとか見つけるの？馬鹿なの？死ぬよ？俺が。

入場して直ぐ水着に着替え、プールが在る方へ行く。え？どんな格好か知りたい？ふんどしだよ。……すいません。普通のです。密林さんで適当に注文した物です……流石にふんどしはないですよね～てへっ。

ぐぅ～～。

「……腹が減っては戦は出来ぬ。朝から何も摂ってないから腹部の悪魔が唸ってるぜぇ……早急に吸収しなけれｂ「おかぁさん…」へ？」

振り向くと幼女がズボンをちょこんと掴んでいた。

「……ふぅ。お嬢さんお嬢さん。どーしたのかなー？」

「ふぇっ。…うぇぇぇえええんん！！」
「おーよしよし。お父さんお母さんとはぐれちゃったのかな？うん。取り敢えず休憩所に連れっててて、放送で呼びかけてもらうかな？話はそれからでも遅くないだろうし…」

ガヤガヤ……野次馬が集まってきた。ちょっと聞こえたんだが「カツアゲ！？」とか「泣かせた！？」は多分。いや、違うから。「変態？」「ロリコン？」…反論できないのが痛いな…。あ、でもこれだけは言わせて欲しい。

「全く、幼女は最高だぜ！」

あのリアルで携帯を取り出さないでください。ネタですから。冗談ですから。ね？

「本当に！ほんっとうにありがとうございますっ！ほら優香！お兄さんにお礼を言いなさい！」
「うん！お兄ちゃんありがとー！ばいばーい」
「バイバイー、もうお母さんから離れるなよー！」
…疲れた。まさか本当に通報されるとは……そして休憩所についた後もあの子…優香ちゃんから名前を聞き出すのに結構苦労したし…。お腹の悪魔様は餓死寸前だし…。疲れた……いくらなんでも探す力はもうないよ……。先輩達には悪いけど今日は帰るようにメールしよう……。

僕のケータイは防水機能が無いので、更衣室に預けてあるので着替える時に取り出す。

夜空さん

メール：無題
帰る
　はぁ？…え？

小鷹さん
メール：無題
夜空が帰っちまったらしい…悪いが俺達も帰るな…
（´・ω・｀）

僕ぷぎゃぁあぁああああああああああ。…ふぅ。
あまりの無駄足にちょっと泣きたくなったが、我慢した。コンビニでカロ◯ーメイトを買い、食べた……買ったのはチョコ味だが、何故かしょっぱかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6066s/

僕は友達が少ない。…ごめん。友達なんていない

2011年10月13日01時51分発行